

ブームの仕掛人

三豊市観光交流局

効果絶大!! SNSでPR

 最近、新聞やテレビなど多くのメディアで取り上げられている父母ヶ浜。脚光を浴びたその背景には、Facebookや無料の写真共有アプリ『インスタグラム』などのSNSを活用した市観光交流局によるPR活動があります。市観光交流局は、今年4月頃からこれらのSNSを使って父母ヶ浜の写真を投稿し始めたところ、瞬く間に画像が拡散。絶景写真を求めて若者が父母ヶ浜に続々と集まってきました。また、その様子がテレビや新聞で取り上げられると、週末の父母ヶ浜は人で溢れるようになり、今話題の場所になっています。

三豊市観光案内所 Facebook

スマートフォンで絶景写真を撮るポイント

- 父母ヶ浜で鏡に映ったような写真を撮影するには、
- ①干潮と日の入り時刻の重なるとき
 - ②浜辺に現れる大きな潮だまりを利用
 - ③無風で波が立っていないこと



▲低い姿勢で撮影しよう

この3つの条件が整ったときがベスト!

『みとよの絶景カレンダー2018』発売中

父母ヶ浜の写真をはじめ、フォトコンテストの入選作品などを集めたカレンダーを作成しました。購入を希望する人は、市観光交流局へご連絡ください。



郵送での受け付けも
行っています。
ぜひお買い求め
ください♡

単価 1,000円(税込み)
送料 400円

▲問い合わせ
市観光交流局(火曜定休) ☎56-5880



▲ちちぶの会の皆さん

浜辺の清掃活動は、毎月第1日曜日の早朝に行っています。あなたもこの活動に参加してみませんか?

・11月4日(日)午前7時~
・12月3日(日)午前7時~



▲作業後はコーヒーで一服
味も格別です!!

▼こんなにすっきりと
綺麗になりました



▲大人に混じって子どもたちも参加

▼清掃作業は広範囲にわたり
手作業で行われます



▲強風で打ち寄せられた漂着ごみ

まるで南米ボリビアのウユニ塩湖!?



父母ヶ浜

干潟に映りこむ風景が、まるで南米ボリビアのウユニ塩湖のようだと、若者の間で話題となっている仁尾町の父母ヶ浜。今月は、その父母ヶ浜にスポットを当ててみました

「ちちぶの会」 浜を守りつづけて22年

「10月は台風の後だったから、漂着ごみが特に多いです。冬になると西風の影響でまたごみが多くなるなあ」と話すのは、長年、父母ヶ浜の清掃活動などを行っている「ちちぶの会」会長の鴨田隆司さん。

今から約20年前、この父母ヶ浜一体の開発計画が持ち上がったとき、鴨田会長をはじめとした町内の有志7人が立ち上がります。

「昔は、潮が引いたあとの干潟に石ガレイやヒラメの稚魚、車エビなどの小さな生き物がたくさんいてね。それを餌にして釣りをしている人もいたんですよ。幼い頃から慣れ親しんできた自然豊かで美しい浜を埋め立てから守りたくて、最初は7人で清掃を始めたのがこの会発足のきっかけです」

暑い日も寒い日も、月に一度、一時間程度の清掃活動を20年以上かかさず続けてきました。口コミでこの活動が広まり、いつしか会員数は70人を超えていました。「最近、夕方になると若者がたくさん来て、浜辺で楽しそうに写真を撮っています。その光景はとても微笑ましく、今までやってきたことが報われた気がします。これがずっと続いて欲しいですね」綺麗な父母ヶ浜を支える地道な清掃活動。皆さんのこの浜への愛情は満ちあふれています。